

あこう(のたより)

3月 

発行責任者
西川 晃 二

【校長室より】

満杯茶空杯の人

長崎県の各高等学校は毎年、卒業式前に生徒会誌を発行し、その年度の生徒たちの活動報告をしています。また同時に、卒業生を送ることばと各学年、学級の紹介、そして部活動を紹介しています。公式には学校要覧というものゝ、6月に発行しその概況を報告しているのですが、生徒制作によるこの生徒会誌は各学校の生徒の活力に満ちあふれた素晴らしい企画ばかりとなっています。本校の生徒会誌も他校に劣らず素晴らしい出来でした。また、巻頭言として、校長の文章を載せるのですが、ある高校の校長先生が紹介された文章が特に印象深かったのでここに転載させて頂き、私の所感を述べて、今年度最後【校長室より】を締めくくりたいと思います。

仏法の教えの中に「満杯茶空杯の人」というものがあります。

一人の青年僧が、教えを乞うため、ある老高僧のお寺を訪ねました。青年僧は、既に多くの名僧の教えや万巻の経を読み終えており、その姿は自信に満ち溢れ、その重厚さは他を押し、向かう所敵なしという感じでした。

その青年僧と対座した老高僧は、青年僧の接待のため、寺の小坊主に茶を注ぐよう命じました。小坊主が茶を注ぎ下がろうとすると、老高僧は、小坊主に「これこれ、もう少し茶を注いでさしあげなさい」そして小坊主が茶を注ぎたして去ろうとすると、「待ちなさい。まだまだ注いでさしあげなさい。」さらには、「いや、まだまだ……」と何度も命じました。茶碗は満杯でこれ以上注げず、小坊主が困って下がろうとすると、老高僧は、その小坊主を「なぜ去るのか！もっと注いで進げなさい！」と一喝しました。小坊主は、うろたえ、転倒せんばかりでした。

見かねた青年僧は、老高僧に対して「ご坊、もう注ぐのは無理でございます。こぼれます」と言うと、老高僧は「なんと、こぼれるといいましたか」と返し、青年僧は「はい、こぼれます」とすると老高僧は「もう注げぬということですか」青年僧は「はい、注げません」そこで老高僧は「あなたにはそれがわかるということですか」と答えました。このとき、青年僧は、突然飛び上がり、頭を深くと下げて「ご坊、解けました。ありがとうございました。」と叫びました。

人に教えを乞う、人から教えてもらうには、満杯の茶の状態ではなく、できるだけ自分を空にしておかなければなりません。学ぶ人というのは、中味が詰まった「満杯の人」のことではなく、いつでも他人の意見や考えをとり入れる余地を持った「空杯の人」のことなのです。 (「仏法と教育の知恵」俵谷正樹 著 碩文社より 要約)

この「満杯茶空杯の人」のお話は、俵谷氏が述べるように、学びの姿勢を述べたものですが、それ以上に含蓄に富んだお話に私には思えます。つまり、人と人との関わりの基本を述べているように思うのです。コミュニケーション能力の育成と叫ばれて久しいことですが、その能力の完成は単に他者と話せるようになることだけではありません。互いに心ふれあうことができこそ、その能力の完成なのです。そして初めて、相手の心を受け入れることができるのではないのでしょうか。カウンセリングの基本は傾聴だと言われます。相手の話をじっと聴きいる姿勢、その話を受け入れる姿勢が相手を和ませ、信頼を培っていきます。それと同じだと言えます。「自分」というもので心が満杯な者には他者を受け入れる余地がありません。

3月1日 卒業式。毎年のことではありながら、生徒たちにとっても、教師にとっても3年間の集大成としての「晴れ」の儀式です。今年の上島高校の卒業式も県下に誇るべき荘厳で、感動的なものでした。巣立ち行く卒業生、そして送り出す在校生の心と心のハーモニーが式場を満たしました。式辞では「豊かな出会い」をしてくださいと述べたところですが、豊かな出会いは決して「待てば海路の日よりあり」的な、何の努力もせずに向こうから訪れるものではありません。それこそ他者を受け入れる姿勢がなければ誰も近づいては来ないでしょう。

さて、最後になりますが、19日に県立高校の教職員異動内示がありました。本校でも、私を含め21名の教職員(定時制3名)が転退任いたします。長い者で7年、短い者で1年という在職期間ではありましたが、皆様方には大変お世話になりました。転退任者を代表して感謝の念をお伝えいたしたいと思ひます。そして、3年間の【校長室より】でしたが、もし3年間お読みいただいた方がいらっしゃるようでしたら、私の駄文に長年お付き合いいただきこれまた感謝申し上げます。そして、転退任者一同、「満杯茶空杯の人」たるべく、今後も努力して参りたいと思ひます。

それでは 皆様 さようなら そして ありがとうございました。

特別表彰式（2月28日）

2月28日（金）に、卒業式に先立ち特別表彰式が行われました。高校3年間で学習や部活動などで顕著な活躍をした生徒が表彰されました。各種表彰の内容と表彰者は下記の通りです。

- | | | |
|------------------------|------|-------|
| ○長崎県教育委員会表彰 | 3年5組 | 濱村歩夢 |
| ○長崎県高等学校体育連盟表彰 | 3年6組 | 下村真洋 |
| ○体育優秀生徒表彰 | 3年6組 | 河野卓実 |
| ○産業教育御下賜金記念優秀卒業生表彰 | 3年7組 | 中村史果 |
| ○全国看護高等学校長協会平成26年度生徒表彰 | 3年7組 | 白石紗也香 |
| ○高校生新聞社賞 | 3年1組 | 樽角奈々美 |
| ○特別活動功労賞 | | |



- | | | | | | |
|------------|----|-------|------|-------|-------|
| 自転車競技 | 1組 | 出口 倫子 | | | |
| 柔道 | 6組 | 下村 真洋 | | | |
| 百人一首かるた | 2組 | 竹崎志保 | 3組 | 入口育美 | 4組 |
| 女子バスケットボール | 1組 | 山下千尋 | 2組 | 上田千富世 | 3組 |
| 写真 | 1組 | 樽角奈々美 | | | |
| 新聞 | 1組 | 川脇真人 | 降田貴大 | 中村夏望 | 3組 |
| | 4組 | 郡家英之 | | | 出口遼 |
| | | | | | 平山龍太郎 |
| | | | | | 山田匠 |

○五高顕彰（部活動以外での特別功労として今年度新設したものです。准看護師模擬試験において、個人及びクラスが全国1位となったことを顕彰しました。）

- 7組 白石紗也香 3年7組（クラス全体として顕彰）

○皆勤賞（3年間無遅刻、無欠席、無欠課の者）

- | | | | | | | |
|----|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 1組 | 山中亮太 | 大坪由佳 | 白川満里奈 | 中山美幸 | 畑田悠花 | 山下千尋 |
| 2組 | 中山拓人 | 今村未来 | 大田すみれ | 柿本麻衣 | 貞方智恵 | 佐藤早姫 |
| 3組 | 今道大介 | 小澤舞 | 櫻田美咲 | 野口和可奈 | | 水戸成美 |
| 4組 | 郡家英之 | 山下康次郎 | 白浜美咲 | 園山美佐紀 | 竹野樹里 | |
| 5組 | 土井一毅 | 松本晋平 | 出口知絵 | 谷川里紗子 | 麥田和佳子 | |
| 6組 | 青野久哉 | 川上和志 | 下村真洋 | 山本信哉 | 濱端美邑 | 丸山智里 |
| 7組 | 鶴瀬史織 | 大松美乃 | 森下楓 | 山本彩加 | | |

同窓会入会式（2月28日）

2月28日（土）に平成26年度卒業生の同窓会入会式を実施しました。式には、吉野榮一石城会会長、高橋徹東京石城会会長に出席していただきました。最初に吉野会長から入会に際してのあいさつがあり、島を離れ新たな生活を始める後輩たちへ、母校と故郷（五島）の発展のため協力してほしいという願いがありました。卒業生を代表して作田未瑠さんが吉野会長を前に、「母校五島高校と郷土の発展に尽力していきます」と入会のことばを述べました。最後に、西川校長より同窓会への入会を祝して、卒業生に激励の言葉が述べられ、平成26年度同窓会入会式が終了しました。

会員となった卒業生の皆様には、進学・就職先で最寄りの支部（東京6月、長崎7月、大阪2月）や帰省した際に五島での懇親会（8月中旬に毎年開催）へ積極的に出席し、同窓会の目的である会員の相互融和を図ってほしいと切に願っています。学年幹事は山田新一郎君と才津優花さんです。五島高校の同窓生の輪を広げるとともに、様々な同窓会活動の際には、皆様のご協力をお願いいたします。

卒業式（1日）

3月1日（日）に五島高等学校普通科第67回、衛生看護科第40回の卒業証書授与式が挙行され、178名の卒業生に卒業証書が授与されました。校長式辞では、餞の言葉として「豊かな出会いをして欲しい」「昨日よりもより良い自分であって欲しい」「故郷を思う心を抱き続けて欲しい」という三つの願いを述べられました。送辞では在校生代表の竹中悠真君が「私たちは先輩方を尊敬し、憧れていました。そんな先輩方が受け継ぎ、たゆまなく



発展させてきたこの五島高等学校の伝統を引き継ぎ、新たな伝統に向けて精進することを今この場で誓います。」と感謝の言葉を贈りました。答辞では卒業生代表の出口千絵さんが感謝の気持ちを述べた後に、「五島高校でのたくさんの思い出と「ともに熱く生きた」仲間の笑顔、三年間で身につけた「自分で気付いて行動する力」「やりぬく強さ」「五高生としての誇り」を胸に、いろいろなことに挑戦し、あここの木のように大きな人間になることを誓います。」と決意を述べました。178名の卒業生はそれぞれ進む道は違いますが、この五島高校で経験したことを糧にこれからの人生を歩んでほしいと思います。

第3学年 中後期試験激励会（3月2日）

卒業式の翌日、3月2日（月）に、中後期試験の激励会を行いました。まずは、校長先生から「勇気を持って受験に挑む」という話がありました。その後、学年主任からは、「背水の陣」という話がありました。「退路を断ち決死の覚悟を持って事にあたる」という意味で使われていますが、『史記』では名将の韓信が、背水の陣で負けない一方、空にさせた城を落として最終的に勝つための方策も行っているのです。負けない準備をすることが大切だと激励がありました。3学年全員の進路が決定することを祈っています。



進路結果速報（普通科67回生・衛生看護科40回生）

今年度も、多くの生徒が栄冠を手にしました。生徒たちの頑張り、そして保護者の皆様の暖かい励ましと支えの賜物でもあると思います。

一方で、まだ中期・後期日程の結果を待っている生徒もいます。最後まで粘り強く努力した結果が実を結ぶことを信じています。

※国公立大学67人合格（3/10現在）

（主な合格校、現役生のみ）

名古屋大学	1	岡山大学	2	長崎大学	7
九州大学	2	山口大学	4	大分大学	6
広島大学	2	熊本大学	1	九州工業大学	4
長崎県立大学	10	都留文科大学	2	名桜大学	7

※私立大学73人合格

※就職試験4人合格

※公務員試験8人合格

※衛生看護科：准看護師資格試験全員合格（17人）10年連続全員合格



次年度に向けて

「勉強ができる＝？」

第1学年主任 淵上 透

「勉強することの究極の目的は、他人の心がわかることである。」ある本で読んだこの言葉に惹きつけられました。他人の心を読み取ることは、目に見えないものをありありと思い浮かべる想像力と関係していて、想像力を豊かにするには「総合的な学力」が必要だそうです。他の動物も共感はあるけれども、見た目と心の中身が一致しないときに心の中を推察できるのは人間だけだそうです。「勉強ができること」と「他人の心がわかること」はイコールなんですね。そう考えると「勉強する」って大事なことですよね。私自身「他人の心がわかる」という点においてはまだまだ未熟で反省することばかりです。だからみなさんに負けないように勉強に励みます。そういうと勤勉のように聞こえるかもしれませんが、人間は本来サボりたくて楽をしたいから勉強し文化や文明を築き上げたという節もあります。ということは、きっと誰でも勉強が好きなんです。多くの人があることに気づいてないだけなのかもしれません。いろいろ探っていくと「勉強」って奥が深くおもしろいですよ。先日、放送通訳者の柴原智

幸先生の講義を受けたときに、「いろいろな知識がクモの巣の糸のように一本ずつ伸びていき、それらがつながったときに大きな知のネットワークを構築できる」とおっしゃっていました。高校生という感受性豊かな時期にたくさんの方に興味・関心を示し、いろいろなことを体験して豊かな想像力を身につけてください。この春休みにおおいに勉強や部活に励み、お互いに一回りも二回りも成長して新学年を迎えましょう。



「考動力」

第2学年主任 久保田 幸成

昨夏、京都のとある野球強豪校についての新聞記事を読んだ。練習後、ある選手が部員に対して「13日の金曜日はなぜ不吉なのか」について、1分間スピーチを行う。いろいろな説を紹介した上で最後に「今日はその日なのでみなさん気をつけましょう」と言葉を添え、笑いを誘って終わる。監督さん曰く「テーマに添った情報を自分で得て、それを自分流に噛み砕き、話を考えさせるための練習」だそうだ。2年半という期間、野球部で「自立した人間の育成」をテーマにしている以上必要な取組だとも話す。この背景にあるものは、選手に「コミュニケーション能力をつけたい」という気持ちだろうし、また「自分で考えようとしないうちの子どもが増えている」という事実もあるだろう。

では自分自身に置き換えてみよう。あなたは1日の生活で、どれだけ自分で考えた行動ができているか？朝起きて夜寝るまで、すべての行為を何も考えないまま、漫然と過ごしていないか。また私自身も「考えさせない大人」になっていないかと考えた。世の中便利になりすぎていて、ITやスマホ等に象徴される「労せずして利を得る社会」が作り上げられている。そこにどっぴりと漬かってしまっていないか…。昨今のニュースはその点に関連したものが多く気になっている。

さて、新3年生はいよいよ進路を決める大切な年だ。その入口には試験という関門が待ち受けているが、突破するために必要なことは、考えて行動する力＝「考動力」である。それは大学だろうが、就職だろうが変わらない。「考えて行動しない」社会だから、「考動」できる人間が求められている。便利さのみを目指す時代はもう終わり。今大きなパラダイムシフトを迎えている。大人も子どもの「考動力」育成に時間をかけるべきだとも思う。速さと結果ばかりを求めてはいけない。自立を目指す高校教師として、2人の子どもの保護者として、自分の在り方も見直さねばならない。とりあえず、妻に毎朝叩き起こされる自分を変えることから始めてみようかと自省を込めて思っている。

第2回校内競技大会（17日）

3月17日（火）第2回校内競技大会が開催されました。天候が心配されましたが、無事に晴天時の種目を行うことができました。各会場ともに熱戦が繰り広げられ、生徒それぞれにとって今年度最後の学校行事とあって、良き思い出となりました。また、今年は職員チームがサッカー、バスケットに予選から参加して生徒たちと熱きバトルが繰り広げられました。会場準備、運営、審判と各方面で協力頂いた部活動のみなさん本当にありがとうございました。なお、大会の優勝チームは次のとおりです。

バスケット男子	2年3組	バスケット女子	2年2組
サッカー男子	2年4組	ソフトボール女子	2年5組
ソフトテニス	1年3組	卓球女子	1・2年6組



離任される先生方

名 前	教科等	異動先
西川 晃二	校長	大村高校
草野 雅充	事務長	島原翔南高校
長尾 正博	保健体育	五島市剣道協会
本田 洋久	地歴公民	大村高校
中村 孝士	保健体育	鹿町工業高校
奥村 眞也	地歴公民	長崎南高校
宗田 将平	地歴公民	佐世保北高校
北川 昭彦	数学	大村高校
内野 悠美	国語	佐世保北高校

名 前	教科等	異動先
坂本 史子	保健体育	波佐見高校
久本 志帆	看護	島原農業高校
村上 勇磨	保健体育	体育協会
木村 理絵	家庭	佐世保商業高校
牟田 拓朗	数学	佐世保中央高校
野口 武靖	物理	上対馬高校
福見 照代	事務	県外の病院
小柳 正樹	実習助手	佐世保中央高校
中山 未菜	英語	佐賀県の公立小学校